



好男子にして講師。我が研究会にはその道のプロも名を連ねています。総会時恒例の講演会を今年は、口演会として開催。「もつと聴きたかった。」と好評を博しました。

今年三月に開催された定期総会において、「講演の前座修行」と題する講演をさせていただいた、講師「東鶴（とうかく）」でございます。講演につき「少し説明が足りなかったかな？」と思うところもあり、この紙面を拝借して、今回は「がまの油売り口上と講演」について語らせていただきます。

がまの油売り口上は、話術だけでなく、パフォーマンスを披露して、見た目の楽しさで人を引き付けます。これは第一に「がまの油を販売する」という明確な目的があるからで、この点は、寄席に木戸銭を払って（先にお金を出して）来た人に話を聴かせる講演や落語などの演芸とは異なります。がまの油売りは、がまの油を「買いに来た人」に販売するのではなく、通りすがりの人の足を止めて、興味を持たせて、すかさず売ります。とに

がまの油売り口上と講演

山口 陽 弘

一、相手を引き込み、理解を得易い
 二、相手の印象に残る
 三、格調・品位が高い
 四、おもしろい

次に、講演の話術を参考にした「人を引きつける話し方」のコツです。次の三つを混ぜ合わせて話を進めます。

一、歌うリズムよく、調子を付けて進める（これが講演の特徴）。

二、語るくしつかりした口調で語る。抑揚は少ない。固く重量感のある調子。

三、話すく普通の口調。リラックスした感じ。

また、話を進める時に大切なことが二つあります。

一、息継ぎを長く。切れ切れに話さない。間の取り方にも気を付ける。

二、話し方にメリハリがあること。リズムがあること。

そして、なるべく大きな声でしっかりと話す、

かく衝動買いを起こさせる「芸」がなければならぬと思います。

さて、講演は五百年という大変長い歴史を持つ話芸ですが、その大衆演芸としてのルーツは「辻講釈」にあります。もともと講演も大道芸の要素があり、その話術も「がまの油売り口上」の参考になるのではないかと思います。

講演の話術の特色・効用は、次の通りであると考えます。

大切なところはゆっくり力強く話すことも重要です。大切なポイント（数字・地名・人名など）は、少し強調するように、さらに相手（聴衆）の呼吸をつかむことができれば万全です。

最後に

一、笑わせる技術を持つこと
 二、自分は決して笑わないこと

これは意外に難しいのですが、コツは、自分は笑わずに照れないでつきりと話す、笑わせた後は元のリズムにさりげなく戻る、といったところです。

いかがでしょうか。あとはぜひ寄席にお出かけいただき、実際に講演を体感してください。講演専門の寄席は、数年前、上野にあった本牧亭を最後に姿を消しましたが、もちろん今でもいろいろな寄席で、他の演芸に交じって講演を聴くことができます。講演協会独自の興行もあります。ぜひ講演の迫力をライブでお楽しみください。

前座修行はなかなか辛いものですが、得るものも多くありました。そう言えば、私のカミさん



も、我が師、田辺一鶴の事務所
に勤務していた。
娘



がま口上研究一歩前進

筑波神社めぐり

松葉 富雄

がまの油売り口上研究会に入会して早二年、口上をするための小道具を買ったり、作ったり、いろいろ勉強することが多いがまだあまり進んでいない。今回の筑波路めぐりは「がま口上の研究」に一歩、二歩となればと参加した。

赤い大鳥居に集まったのが二十二名、会長の挨拶の後、井坂先生の講話となる

私が初めて筑波神社に詣でたのは、四十年前も前のこと。その後、何十回となく行ったが拝殿に参拝して山頂に登山するので、今回めぐったところは、初めてで、大変感銘を受け、勉強になった。

参道の両側には門前町が形成され、旅館、店がならび栄えていたというが、今はその面影のみ。これも初めてみるが、藤田小四郎の像があり、幕末の天狗党、尊王攘夷倒幕の先駆者であるが、筑波では悪行があり、歓迎されていないとのこと。

神橋は、いつも横を素通りするが、第三代將軍徳川家が寄進している。少し上ると、竹生島よりご分霊したという「厳島神社」

神橋は、いつも横を素通りするが、第三代將軍徳川家が寄進している。少し上ると、竹生島よりご分霊したという「厳島神社」



神橋

を経て神社拝殿。拝殿前に建つのが、随神門。神仏習合時代には、中禅寺の仁王門であったが、分離後は神社の随神門とされた。拝殿の右側、今回先生の顔で、日枝神社・春日神社に入ることが出来た。「見ざる」「聞かざる」「言わざる」の彫刻があり、先生の話によると、この三猿は日光のより数年早く作られたもの、と聞いて驚いた。



↑日枝神社

↓三猿



随神門

ると、「徳一の墓」に着く。墓石があるかと思えど、何もなく荒廃地だった。

中禅寺は延暦のはじめ、興福寺の高僧、徳一の開山により創建され、その後空海が入山し知足院中禅寺と号したという。江戸時代は、神仏習合により、栄えたが、明治の神仏分離で中禅寺は廃寺され、石堂、仏具などごとく破却された模様であり、また心無い人達によって墓石まで持ち去られ大変な損害であったという。いま、それらの財産があれば、文化財として観光の目玉になっているところだが、残念なことだ。

また、この神仏分離により筑波山神社が復興され、その要部は中禅寺の跡地を踏襲して形成され現在に至っている。このとき、千手観音像だけは信者の手で守られ、昭和に入り再興され、拝殿の隣、筑波山大御堂となつて、関東二十五番観音霊場となつている。

観音霊場は、そもそも四国八十八箇所から始まる。私は若い時、善通寺にいて、徳島県の一番霊山寺から始まり、高知県・愛媛県・香川県の八十八番大窪寺まで遍路の真似事をした。その後、高野山をめぐるとき、「満願成就」となる。そして「掛け軸」が完成する。

これに続き、西国三十三箇所は、和歌山県の青岸渡寺に始まり、大阪・奈良・京都・滋賀から岐阜県の華厳寺まで続く。

さらに続いて坂東三十三箇所は、源頼朝が発願された、とあり西国の霊場を模



範として札所を制定したと伝えられる。鎌倉市の一番杉本寺から、神奈川・埼玉・東京・群馬・栃木・茨城・千葉にかけて館山市の三十三番那古寺まで、巡拝すると千三百キロにもなるという。友人とめぐる計画はしたがまだ果たしていない。

下山して拝殿の下、**光誉上人の五輪塔**にたどり着く。ここでやつとがまの油と結びつく。
第2代住職 光誉上人は、徳川家康に仕え大坂冬の陣、夏の陣にて、陣中祈禱や軟膏をもつて、けが人の手当



光誉上人の五輪塔

てにあたった。その効果が評判を呼び、この頃から上人の薬は陣中膏がまの油として筑波山名物となる。「陣中膏がまの油」の由来で、ここから始まったようである。がまの油売りが筑波山の伝承芸となったのは、戦後(昭和二十一年頃)観光の目玉として、地元の業者らが目をつけ、筑波山出身の光誉上人にまつわる言い伝えと結びつけ、筑波山のシンボルを作り出したのが始まりのようである。十六代までは、居合い抜き(芸道であったが、十七代から油売り口上のほうが主流になったようである)。

がまの油の発祥の地はどこか? 様々の説があるが、土浦市城北町に白水稻荷があり、その鳥居脇に「発祥の碑」が建つ。『昭和五十八年五月 聴

雲座 出場逸人 書』とある。また、つくば市沼田筑波山梅林に白い石碑が建っている。この発祥碑は、口上がこの地で発祥したことを記念して建てられたもので、『ガマ口上文と筑波山 永井兵助』とあり、背面には、『昭和五十八年八月一日献建之』とある。

何も知らない一年生が先輩のご承知のことをながながと記しましたが、新人の勉強の第一歩として書いてみました。

ハイキングに参加して



村松 章好

初めまして、村松章好と申します。かすみから市に在住して今年で三十年になるところです。

私は、大世話人の佐藤貞弘さんの友人で(まだ数回しかお会いしていないので友人と言えるのが心配ですが、言わせて下さい) 県のボランティア活動の**筑波山サポーター**で知りあい、今回の筑波山ハイキングのお誘いが有りました。「井坂先生の筑波山神社周辺建物等の有意義な解説が聴けて勉強になるよ!」との連絡を受け、直ぐ参加させて下さいと返事を致しました。その時、佐藤さんの自己PRでがま研の活動とホームページを紹介して頂きビックリしてしまいました。「何ですって! :」実は私は、林先生のがま口上講座を平成二十三年度に受けておりました。この事を佐藤さんに伝へ、私達の仲人を筑波山のがまがしてくれましたですねと、お互いがビックリした次第です。

筑波山神社周辺の各所では、井坂先生の名解説を受けながら楽しい時間を過ごすことができました。また、井坂先生とも久しぶりにお会いできたことも良かったです。それは、佐藤さんと繋がるきっかけになった生涯学習センターでの県民大学講座「筑波山から学ぶ」で先生の講座を受けておりました。(実際のところ、教えて頂いた内容は既に忘れていましたが...)。

また先生は、ご苦労され平沢官衙遺跡を復元された功績等の話や、つくば市の現在の表側の学園都市と古い山側の深い考察と独自の話し方で、人気の講座・講師になっていることが解りました。お元気で益々のご活躍を期待しております。

私はこのかすみから市に住み慣れ、娘二人も嫁ぎ、妻と二人の生活を送っております。先日は下の娘に初孫誕生があり、嬉しいおじいちゃん・おばあちゃんになりました。娘も親も初めてなので「まごまご」しちゃっています。私共はこの土



筑波山のパワースポットともいえる水源にも案内していただきました。

地に埋もれるしなく覚悟しています。茨城を代表する山の筑波山を知って、もつとこの茨城のことを知りたいと思っています。

今回、このような会に参加して有意義に過ごさせて頂いた事に感謝致します。「筑波山サポーター」ではないけれど「がま研のサポーター」として、時々、の行事に参加して皆様と有意義な時間を過ごせたらいいなと思いました（がま口上の実演はムリですが）。これからも、林会長のこの会の益々のご盛況を祈念し又スタッフの皆様の益々のご活躍、ご健勝をお祈りし、陰ながら同会の応援をさせて頂きたいと思えます。

新緑の筑波路めぐりに参加して

下妻市 星野和哉

当日は、筑波山ハイキングを兼ね、家内と一緒に参加させていただきました。地元のハイキングクラブに加入していることもあり、家内を誘って麓の白井集落から登り、予想外に早く一時間位で集合場所の大鳥居に着きました。時間がありませんので、神社で参拝した後、境内を散策しました。当然、井坂先生の説明を受ける前で、何となくめぐってききました。

その後先生の説明から、筑波山が三月に行った高尾山と比べて引けを取らない大きな寺であったことを強く感じました。筑波山神社には何度か訪れたことがありましたが、神社裏手の朽ち果てた寺院跡を井坂先生に案内してもらい、明治の廃仏毀釈によつ



高尾山 山王神社

て貴重な遺産が打ち壊されたのだと、改めて残念なことだったと感じました。日光では、地元住民の運動で二社一寺を残し、日本有数の観光地として残ったという話を聞き、

TXによって徐々に人気スポットなりつつある筑波山も日光以上の観光地になっていったのでは...と。

成田山・筑波山・日光と聞き合点がいききました。一時期筑波山観光が下火となったので、「ホテル江戸屋」で筑波山観光協会の方々が、観光の目玉として「がまの油売り口上」を創めたことを考えると、何か歴史の綾を見る思いです。

私は「がまの油売り口上」に、「がまの油売り口上の起り」のブログを自分なりに作りました。今回この行事に参加して、その中の一説「徳川家康の従軍僧として筑波山神社の同じところにあつたお寺の二代目光誉上人が、がまガエルのエキスから作った傷薬・・・」のフレーズを「徳川家康の従軍僧として筑波山神社と一体だったお寺の二代目光誉上人が、がまガエルのエキスから作った傷薬・・・」と変えることにしました。神社と寺の深い関係を改

めて認識しました。最後に、家内と楽しいハイキング歴史散歩に参加させていただいたことに心より感謝申し上げ、また、このような企画に参加して、もつと自分が生まれ育った郷土の事を知りたいという思いにかられました。



↑日光陽明門

↓成田山新勝寺



忘年会のお知らせ

期日：11月29日(土)～30日(日)
行先：鬼怒川温泉(ホテルニューおおり)
会費：10,000円
集合：新治庁舎裏の職員駐車場 8時出発

* 詳細は案内の往復はがきでご確認ください。

私はがま研にとつては全くの門外漢であるにもかかわらず、佐藤貞弘さんのご案内により続けて三回も筑波路めぐりハイキングに参加させていただき、皆様の温かい接待に感謝している者です。また、井坂先生の詳細なご説明により今まで見過ごしていた筑波山界隈の歴史、文化を改めて勉強させていただき、本当にありがとうございます。

そんなわけで、皆様のお暇つぶしにしかならないとは思いますが、佐藤さんのお薦めもあって、以下について最近参加した“まつりインハワイ”ツアーの雑感について書かせていただきます。

実は、このところ私がかまっている FORESTA (フォレスト) という混声コーラスグループを追いかけて、一緒にハワイ旅行を楽しむというツアーに参加してきました。

“まつりインハワイ”とは、日本とハワイとの文化、芸能、芸術を通じた交流の架け橋として、一九八〇年にスタートし、今年三十五回目を迎えるホノルルでの国際交流イベントのことです。

“まつりインハワイ”は、六月十三日〜十五日にわたりワイキキビーチ近くのショッピングセン

“まつりインハワイ” ツアー

小林 晴 己

ターステージを主会場として、ワイキキビーチに沿ったカラカウア大通りの所々にも特設ステージが設置され、日本各地から参集した主にフラダンスグループが、日頃の練習の成果を本場ハワイのステージで披露していました。参加している人々はシニア世代も多く、グループの皆さんにとつては念願のハワイ本土で地元の人々を始め世界各国から集まった観客の前で演技できることを限りない喜びとしているようです。



FORESTAグループのコーラス風景

フラダンスグループの他にも、日本の夏祭りが移動してきたような多くの和太鼓グループや、大正琴グループ、盛岡のさんさ踊りまで沢山のグループの参加もありました。『筑波山がまの油売り口上・インハワイ』の参加があれば、会場が大盛り上がりするのではないかと感じた次第です。その時はまたハワイに来ようね、と女房と

話しているところです。

古稀を過ぎてからの初めての夫婦ハワイ旅行であり、短期間だったので、ダイアモンドヘッドをはじめとしたオアフ島周遊観光をしたりして、まつりインハワイ”を集中して楽しむことができなかつたのは心残りでした。それにしても、ハワイの夏は、日本のように蒸し蒸しする暑さはなく、からっとしていて過ごしやすいい気候なんだと、肌で感じた旅でした。



東京から参加したグループのフラダンス



私流 ウォーキング 渡辺 由正

がま研の人間国宝ともいえる渡辺氏。その場に立つだけで会場の人心を手中におさめ、笑いと感じを与えてしまふ。その健康と活力を支える、日々の精進を寄稿して頂きました。末永く我らの手本としてご活躍頂けることを、心より期待します。

午前4時三十分ころ起床。家を出て、大きく背伸び・軽く体の前後屈・両脚の屈伸・深呼吸をして、午前五時、八十八才が出発。歩行時間六十〜七十分、年齢とは思えぬ足取りで毎朝歩き始める。

ウォーキングを始めてかれこれ十五年くらいになるが、一年のうち厳寒の十二月から二月までと雨天の時は休み、その他は何か特別なことが無い限り休むことは無い。

ウォーキングのコースは、『定期的に変わったほうが風景なども目新しく良い』といわれるが、私は年中同じコースを歩くことにしている。

その良さは、同じように歩いている人に毎朝のように会って、明るい朝のあいさつができ「がんばりましょう!」と励まし合うことができる。そして何よりも利点は、出発してこの『十字路』で何キロ、この『電柱』で大体何歩、今日は少し歩く速度が遅かったかなど、歩数・時間・距離などの比較ができることが良い。

速度は、一時間約八千歩(距離にして五キロ強)それに一日の生活歩を加えると、平均して一日一万歩以上は歩くことになる。

さて、朝の一時間余りのウォーキングで、まずはリズムにのって同じ歩幅で歩くように心がけている。

さらに、歩行中に他に何かできることはないかと考える。

そこで、歩きながら手や指を使つて、グー・パーを交互にゆつくりと、つぎに速く五〇回

くらい続ける。左右の指を折りながら声を出して『十』まで数える。これも最初はゆつくりそして速く動かす。ときには腕を前後に廻す運動もできる。また、歩きながらも声を出すこと、話をするには何の不自由もない。毎日ではないが『がま口上』の練習もできる。

最初の「サー」で第一歩、次の「サー」で第二歩・・・と、リズムと歩幅が一体となつて「サーサー」お立合い、ご用とお急ぎでない方は・・・。ウォーキングは『口上』とともにスムーズに進んでいく。

田園地帯の早朝のすがすがしい自然の中での『ウォーキング』と『がま口上』。じつにふさわしい風景である。

高齢なので、いつまで続けられるかわからないが体のゆるす限り、ふくらはぎに『がまの油』を擦り込みながらウォーキングを続けたいと思っている。



平成 26 年度

がま口上講座

開催日： ① 9月27日(土)
② 10月11日(土)
③ 10月25日(土)
④ 11月 9日(日)

午前 10 時～正午

場 所：土浦市立『小町の館』

定 員：40 名

受講料：無 料

*興味をお持ちの方がおられましたら是非お誘いください。

編集 後 記

降れば土砂災害、吹けば竜巻、地球の未来を案じながらも、本号お届けできてほっとしております。次号は何と三十号です。楽しい原稿をお待ち申し上げます。

ちなみに、ホームページを訪れて下さった方も、のべ**五万人**を突破しました。管理者の泉世話人のご苦勞に感謝です。

編 集 子

原稿送付アドレス tgod6474@i-next.ne.jp